

2006年2月3日

市川市長千葉光行様

緑のみずがき隊  
市川緑の市民フォーラム  
真間川の桜並木を守る市民の会

## 大柏川流域の「水と緑の回廊(コリドー)構想」の提案書

大柏川流域は市川の東北部に位置し、梨園や山林及び古くからある農家等が広がる台地部と市街化が進んだ大柏川沿いの低地部からなり、市域の中で最も自然環境の豊かな地域です。しかし、平地林は少なくなり、まだ多く残っている斜面林も住宅地開発や霊園開発等により年々少なくなっています。

貴市は、この地域の街づくりの方針として、【都市計画マスタープラン】では「豊かな自然環境を大切に育み、自然や歴史と共生した住みやすいまちづくり」とし、また、【みどりの基本計画】では「里地、里山を活かしたまちづくり」と位置付け、さらに緑の課題として「河川・谷津・樹林地・農地等市川市を代表する特色ある自然環境の一体的な保全と地域住民が緑の減少に対して問題意識をもって活動に取り組める体制作りが必要です」と謳っています。

すでに、この地域には市民による自然環境維持・保全の活動として、「北方遊水池の会」による大柏川第一調節池の自然環境の復元や水田環境維持・保全の取り組みとして「緑のみずがき隊」による北方ミニ自然園及び「市川米っ人くらぶ」等による小川再生親子ふれあい農園が行われています。しかし、環境の21世紀を迎えて、これら個々の自然環境維持・保全の活動だけでなく、大町自然公園の自然観察園をはじめとした地域の「水と緑」の自然環境をネットワーク化することにより地域全体の生態系のポテンシャル（生きものの生息・生育環境の質、種多様性）を向上させる総合的な取り組みが求められています。

つきましては、「自然や歴史と共生した住みやすいまちづくり」を実現させるためには自然環境を維持・増進させることが不可欠と考え、この地域の水と緑の現況を踏まえて、生きものの生息・生育環境のネットワーク形成を目指した大柏川流域の「水と緑の回廊(コリドー)構想」を、ここに市民団体として提案いたします。

なお、貴市におかれましては、この提案にご理解をいただき、今後具体的な話し合いを設けてくださるよう、よろしくお願い申し上げます。

連絡先： 緑のみずがき隊 市川市東菅野 5-24-18 事務局長・岩丸利恵  
市川緑の市民フォーラム 市川市曾谷 7-24-3 事務局長・佐野郷美  
真間川の桜並木を守る市民の会 市川市八幡 6-9-6 事務局・鳥居雪子

# 大柏川流域「水と緑の回廊（コリドー）構想」

## 1. 市川市のまちづくり

「水と緑の回廊構想」を進めるのにあたって、市川市における関連するまちづくり計画は以下の通りである。

### 1) 都市計画マスタープラン

平成 16 年 3 月に策定された「都市計画マスタープラン」は、「市川市総合計画」に示された将来都市像を実現するための「部門別の諸計画」に対する総合的な指針となるものです。この中で、水や緑の自然環境に関することも含めて、以下のような目標が掲げられている。

#### 【都市づくりの目標】

- ・活力・住みやすさを持つバランスのとれた魅力ある都市づくり
- ・歴史・文化・自然を活かし潤いと安らぎのある都市づくり
- ・都市基盤が整い安全に安心して暮らせる都市づくり
- ・都市活動や日常生活を支える交通環境の充実した快適な都市づくり
- ・市民・事業者・行政の協働によるまちづくり

#### 【北東部の地域づくりの目標】

- ・豊かな自然環境を大切に育むまちづくり  
地域の成り立ちを示す台地と谷津、斜面林や大柏川の水辺、人々の暮らしを支える農地等の様々な自然環境に多くの人々が親しみ、また、大切に守る意識が高まる街を作ります
- ・自然や歴史と共生した住みやすいまちづくり  
農地や緑地・河川などの自然環境と寺社や貝塚等の歴史環境と調和する潤いと安らぎのある住みやすい街をつくります
- ・誰もが安心して住み続けられる優しいまちづくり  
安全な道路環境や魅力のあふれた河川や公園の環境等、アメニティーの向上と地域ぐるみの防災・防犯の活動に取り組む、誰もが安心して住み続けられるお互いに優しい街をつくります
- ・多世代が交流するコミュニティのあるまちづくり  
地域の特性を活かして創られる水や緑、歴史と文化、商業・業務地などの各拠点を多くの人々が訪れ、多くの世代が交流しコミュニケーションの生まれる街をつくります

### 2) みどりの基本計画

平成 16 年 3 月に策定された「みどりの基本計画」は、市川市総合計画や都市計画マスタープランに整合するとともに、市川市環境基本計画とも調和が保たれており、市域の貴

重なる緑地を保全し、潤いや安らぎのある新たな公園・緑地の整備に向けて、以下のような基本的な方策を定めたものです。

### 【基本方針】

基本理念として「人と緑の関わりを大切にすると謳い、将来像として「潤いと安らぎあふれる緑豊かなまち」を掲げ、この実現に向けて以下の基本方針を示している。

- ・生態系に配慮して地域の緑を守り活用します
- ・魅力ある都市公園を創出します
- ・公共施設の緑を増やします
- ・民有地の緑を増やします
- ・水と緑のネットワークを形成します
- ・緑のパートナーシップを推進します

### 【北東部地域の方針】

一里地・里山を活かしたまち

#### ①緑の課題

- ・河川・谷津・樹林地・農地等市川市を代表する特色ある自然環境の一体的な保全と地域住民が緑の減少に対して問題意識をもって活動に取り組める体制づくりが必要です
- ・水辺の拠点として位置付けられている大柏川第一調節池の潤いと安らぎ空間の創出が望まれます
- ・緑の拠点として位置付けられている大町公園は、自然環境の保全とレクリエーション機能の充実が、さらに求められています
- ・環境保全機能のある生産緑地地区の保全・活用が求められています

#### ②施設の方針

- ◇樹林地の保全と活用
  - ・谷津環境を形成する樹林地の活用
  - ・大町周辺の樹林地の保全と活用推進
- ◇風致地区（大町・法華経寺・八幡）の保全
  - ・風致地区の保全
- ◇地域景観を形成する樹木の保全
  - ・社寺林・屋敷林等の保全
  - ・中山法華経寺と周辺景観の保全
  - ・クロマツ・巨木等を核とした中心市街地の緑化推進
- ◇農地（生産緑地地区）の保全・活用
  - ・生産緑地地区の保全・活用
- ◇都市公園の整備
  - ・大町公園の整備

- ・（仮称）葛南広域公園の整備
- ・姥山貝塚公園の整備
- ・運動公園の整備

#### ◇水辺の拠点とネットワーク

- ・大柏川第一調節池及び川沿い環境の保全
- ・大柏川沿いの環境の保全
- ・市のシンボルとなる真間川沿いの緑化推進

## 2. 大柏川流域の自然環境と保全地域

大柏川の流域は市川市域の中でもっとも緑の豊かな地域で、標高約5mの大柏谷の低地のほぼ中央を大柏川が流れ、西側に標高約15mの大町・大野の台地、東側に柏井の台地からなっている。また、谷津地形が発達し、この低地部と台地部の縁には約15mの急な崖になっている。

### 1) 緑の自然環境

台地部の大部分は梨園や蔬菜畑が広がり、市街化地域には生産緑地が多く指定されている。

平地林としては大町北部の「わんぱくの森」を中心とした林や柏井東部の「青少年の森」周辺に見られるのみである。

低地部は大柏谷から、いく筋かの谷津が入り込んでいるが、市街化の波に押されて大町自然公園長田谷津の他は大野町2丁目うしろ谷津、大野町4丁目谷津がかろうじて谷津形態を保っており、ここの斜面林とともに市域の3ヶ所の貴重谷津景観である。また、大柏川沿いは水田がほとんど休耕地となり、荒地や葦原湿地になっている。

台地部と低地部の縁の崖は斜面林となっており、市川の緑の財産となっているが、ここも市街化の影響を受けて年々少なくなってきた。

また、北東部の風致地区には市川市霊園があり、霊園内のオープンスペースと樹木や斜面林は生物のかっこうの生息場所になっている。

別添一 大柏川流域の自然環境（オープンスペース現況図）参照

この地域の樹林植生は、市川市自然環境実態調査報告書2003によると、市川における代償的な落葉広葉樹林はコナラ林とイヌシデ林であり、その多くの場合はコナラとイヌシデ、クヌギ等複数の種が混交した群落を形成している。常緑広葉樹林の代表的なものはスダジイ林とアカガシ林であり、スダジイとアカガシが混交する場合と、スダジイが純林を形成する場合とがある。

以下の調査区事例が示す通り、大柏川流域の樹林植生も上記の代表的な植生にほぼなっている。

#### 【調査区事例】—市川市自然環境実態調査報告書2003

##### ①市川市霊園西側斜面林

優占種コナラ、イヌシデ林で草本層の出現種数が80種で林床の種多様性が高い。

##### ②柏井青少年の森

優占種コナラ、イヌシデ、エゴノキ林で草本層 47 種である。

③大町自然公園東側斜面林

優占種コナラ、イヌシデであるが、シラカシ、ヤマザクラ、エゴノキ、コブシの優占度の高くこれらの混交林である。

④大野町 4 丁目斜面林

スタジイの純林である。人家に接した裏山で、地権者の話では明治の頃このあたりはマツ林で、その後に手入れをしなくなって現在のスタジイ林になったそうである。

## 2) 水の自然環境

植物にとっても動物にとっても「水」は生きるために欠かす事の出来ないものであり、緑の自然環境との生態的結びつきにより、生物の多様性ある生息・生育環境がより高められる。

この地域は大柏川が水環境の軸であり、上流には県により水質浄化施設が建設されているが、流域の下水道の未整備によってまだ水質は相当悪いままである。

北方町には治水施設として約 16ha の大柏川第一調節池が国の水辺プラザ事業として「自然環境復元・創造」の事業が進められおり、それに接して、市民プールの水面や、過っての大柏谷の形態を残した水田環境が「ミニ自然園」として湧水を使って市民グループにより運営されている。

さらに上流の鎌ヶ谷市境には約 25ha の大柏川第二調節池が計画されているが、現在は休耕田の葦原湿地になっている。

この流域の谷津には、かつては多くの湧水が見られたが、宅地化が進み湧水は少なくなった。この地域一番の湧水は、大町自然公園の崖裾からの湧水で、大量の湧水が大町自然公園から市川市霊園内を通り、NPO により運営されている「小川再生親子ふれあい農園」を経て大柏川に注いでいる。大野 4 丁目谷津にも湧水があり、一部家庭の雑排水を集めながら「親子ふれあい農園」を経て大柏川にそそいでいる。うしろ谷津は水田が埋め立てられ湧水はなくなり、松戸市域からの雑排水は大野調節池に入り梨風園の排水路となり、「こざと公園」の調節池に注がれている。

その他の谷津は残念ながら宅地化が進み、湧水は暗渠排水路となり見る影もない。

別添一 大柏川流域自然環境（オープンスペース現況図）参照

## 3) 保全したい自然環境地域

市川市自然環境政策課では 2001 年から 3 年間市川市域の自然環境実態調査を実施してきた。それに基づいて、2003 年には「市川市の保全したい自然環境」が提案されている。これらを基本にして、大柏川流域での保全したい自然環境地域は以下の 17ヶ所である。

別添一 市川市の保全したい自然環境地域所在地図参照

◆大野一丁目・二丁目・三丁目

(12)大野調節池と周辺斜面林（うしろ谷津）

(13)梨風緑地（公共緑地）

(14)大柏小台地斜面林（一部公共緑地）

(15)市川五中斜面林（学校敷地内）

◆大野四丁目・大町

- (16)大町小わんぱくの森及び周辺の森
- (17)大町自然公園と周辺（一部公共公園）
- (18)市川市霊園とその斜面林
- (19)駒形神社と周辺谷津と斜面林
- (20)大野四丁目斜面林と水田地帯

◆柏井・奉免

- (21)柏井青少年の森とその周辺
- (22)唱行寺周辺斜面林
- (23)柏井緑地（公共緑地）
- (24)子安神社境内
- (25)鎮守の森大六天の森

◆水辺ブロック

- (32)大柏川第一調節池とミ二自然園
- (34)柏井調整池
- (35)こざと公園

### 3. 水と緑の回廊（コリドー）構想

地域の中に生きものの良好な生息・生育環境を形成するには、すでに成立している生きものの生息・生育環境の保全維持を図るとともに、これらの土地が有する自然的なポテンシャルを踏まえて、生きものの生育・生息環境の質を向上させていくことが求められる。

そのためには、生きものの生息・生育環境のネットワーク化（回廊）を図り、生態的機能を強化していくこと、つまり谷津景観や平地林・斜面林の保全、風致地区や地域景観の緑の保全、農地（特に生産緑地）の活用、さらには都市公園のさらなる整備を図りつつ、これらと水辺とのネットワークの形成を目指すことが、極めて重要である。

別添一水と緑の回廊（コリドー）構想参照

市川市のまちづくりでも、この地域を「豊かな自然環境を大切に育み、自然や歴史と共生した住みやすいまちづくり」を謳っている。また、「里地・里山を活かしたまちづくり」と位置付けて、多様な動植物の生息・生育環境の保全維持を図りつつ、人と「水と緑」との関わりを大切にする街づくりを目指している。

水と緑の回廊（コリドー）構想の基本的な考え方は、以下の通りとする。

#### 1) 「水と緑」の軸

- (1) 「水と緑」の軸として、大柏川沿いを幹線軸とする

大柏川の河川改修は、一部親水施設や自然石を使った河道改修が行われているが、残念ながらすべてが近自然工法による河川改修にはなっていない。しかし、水質浄化施設や

公共下水道が整備されれば水生生物がより多く戻ってきてくれることは確実であり、魚のハヤ、ヤマベ、ハゼ類はもちろん、アユの溯上も夢ではないであろう。それに合わせて、並木の整備や休耕田をうまく利用した回廊幹線軸の整備を図ることが重要である。

(2) 谷津として残っている3箇所の水路沿いを支線軸とする

① 大町自然公園—市川霊園—親子ふれあい農園—大柏川へのせせらぎ

ここは大町自然公園の湧水を水源とし、市川霊園内を流れ親子ふれあい農園の水田を潤し、大柏川に注いでいる。市川の中でも一、二を競うきれいな水路であり、このルートの改良計画は流域の回廊計画の目玉である。

② 大野四丁目谷津—親子ふれあい公園—大柏川へのせせらぎ

大野町四丁目谷津は市域で谷津形態が残っている唯一の谷津である。この湧水が水源となり、谷津の葦原の池からせせらぎとなり、途中草土手二面張りの水路は周辺の雑排水を集めながら、親子ふれあい農園の水田を潤しながら、大柏川に注いでいる。

③ うしろ谷津—大野調節池—風致地区梨風園（斜面林）—こざと公園調節池への水路

すでに谷津の水田はほとんど埋め立てられ湧水も枯れ、3ヶ所に工場が操業しているが、周囲の斜面林は大町自然公園にも匹敵する景観を呈している。

水路はすべて三面張り水路となり、上流の松戸側からの雑排水により大野調節池の水質は悪くなっている。風致地区の梨風園内も雑排水の流入する三面張り水路となり、下流は暗渠となり、こざと公園調節池の道路下の横越流で大柏川に注いでいる。

2) 「水と緑」の拠点

① 大町自然公園・市川霊園・その周辺地域

「水と緑」の支線軸として、回廊計画の目玉として霊園から親子ふれあい農園までの水路改修を中心に拠点づくりをする。

② 大野町四丁目谷津・駒形神社・その周辺地域

市域で谷津形態が残っている唯一最後の谷津である。谷津整備と同時に水路整備を行い、「水と緑」の拠点づくりをする。

③ うしろ谷津・大野調節池・こざと公園・その周辺地域

大野調節池を中心にした谷津景観の保全と、梨風園内の水路のせせらぎ改修をこざと公園まで結びつけ、「水と緑」の拠点づくりをする。

④ 大柏川第二調節池（計画）地域

大柏川の上流部に約25haの自然流下方式の大柏川第二調節池の計画があり、現在大部分は休耕田として葦原湿原になっている。治水計画上でも早急に整備したい。

⑤ 親子ふれあい農園・大柏川浄化施設緑地・地区公園（計画）地域

親子ふれあい農園として小川再生事業が行われたが、小川が丸太土手になったり、田んぼの取水装置が小動物には優しくなかったり、今後の改良を残した再生事業である。大柏川の左岸側は浄化施設緑地と一体になった地区公園が計画されている。

⑥ 下貝塚・派川大柏川・大柏川第一調節池・ミニ自然園・スポーツ公園・柏井調整池地域

現在、水辺プラザ事業による大柏川第一調節池の自然環境復元・創造事業が行われており、東側に隣接しているミニ自然園を含めると、約17haの自然環境エリアが出現する。また、北側の市民プールも数年後には見直しが始まり、新たにスポーツ公園として

の計画も進んでいる。従って、近い将来は「静」と「動」の総合公園として、市域北東部の「水と緑」の一大拠点となろう。

なお、大柏川の右岸側には、下貝塚の斜面林や休耕田等からの絞り水が派川浄化施設を経て派川大柏川に注いでおり、水質の改善により小魚等が戻ってきている。

### 3) 「緑」の拠点

#### ① 大町小わんぱくの森と周辺の森

大町の市域境には市民に開放されているわんぱくの森を始め、市川では無くなりつつある平地林があり、今後、市民の里山活動の拠点としたい。

#### ② 柏井青少年の森とその周辺（葛南広域公園一計画）と姥山貝塚公園地域

柏井の市域境には雑木林による柏井青少年の森がありキャンプ場になっている。ここは船橋地域も含めて、県による葛南広域公園予定地になっている。

この南には斜面林を含めて姥山貝塚公園があり、柏井調整池へと続いている。

### 4) 水と緑によるネットワーク

これらを「水と緑」により、出来るだけ回廊（コリドー）として連結する。

即ち、地域内での生きものの生息・生育環境の優れている17ヶ所のネットワーク形成に向けて、地域の中の「水と緑」を軸にして、谷津、斜面林、平地林、農地（梨園・蔬菜畑・水田・生産緑地・休耕田）、都市公園、保全緑地、学校の施設緑地、個人・企業の庭園などの小規模な緑を計画の中に取り込み、連結または飛び石上につながるよう総合的に計画することが重要である。

(1) 大柏川沿いの植樹滞及び休耕田を整備し、第一調節池・第二調節池（計画）・親子ふれあい農園・浄化施設緑地・河川ミニ公園・都市公園（計画）等を結びつけながら、「水と緑」の【幹線軸】を形成する。

(2) 谷津景観と水路が残っている三つの【支線軸】を整備し、【幹線軸】に結びつける。

(3) 各【支線軸】は梨園や斜面林等により、平地林や斜面林が残っている「わんぱくの森」等の《緑の拠点》へ連結する。

(4) 柏井方面は第二調節池の《水と緑の拠点》から柏井青少年の森の《緑の拠点》を結び、さらに柏井調整池を経て大柏川第一調節池の《水と緑の拠点》へと連結する。

回廊（コリドー）とは、単に人間の利用する遊歩道整備を意味するのではない。地域に点在して残る「水と緑」の自然環境を連結しネットワーク化することにより、地域全体の生態系のポテンシャル（生きものの生息・生育環境の質、種多様性）を向上させることに眼目がある。自然環境を維持・増進させることをもって、「自然や歴史と共生した住みやすいまちづくり」を実現させるよう、提案する。